

	江ノ島電鉄	小田急電鉄	京王電鉄
<p>明治33年(1900)</p> <p>明治35年(1902)</p> <p>明治43年(1910)</p> <p>明治44年(1911)</p>	<p>江ノ島電気鉄道(株)誕生。(現在とは別法人)</p> <p>藤沢～片瀬(現江ノ島)開通。</p> <p>小町(後の鎌倉現廃止)まで開業。藤沢～小町全通。小町駅は郵便局、生涯学習センター島森書店の前方の若宮通り路上にあった。</p> <p>横浜電気(株)に買収され同社の江ノ島電気鉄道部の運営となる。</p>		<p>京王電気軌道(株)設立。</p>
<p>大正2年(1913)</p> <p>大正4年(1915)</p> <p>大正5年(1916)</p> <p>大正10年(1921)</p> <p>大正12年(1923)</p> <p>大正14年(1925)</p> <p>大正15年(1926)</p>	<p>小町駅が鎌倉駅と改称。</p> <p>東京電灯が横浜電気(株)を買収し、鉄道運営を引き継ぐ。東京電灯江ノ島線となる。</p> <p>現法人である江ノ島電気鉄道(株)設立される。</p>	<p>小田原急行鉄道(株)設立。取締役社長は利光鶴松氏。親会社は鬼怒川水力電気(株)。</p>	<p>笹塚～調布を開業。</p> <p>新宿追分(現廃止)～調布間開通。新宿追分駅は新宿3丁目、現在の明治通り上にあった。</p> <p>6月に調布～多摩川原(現京王多摩川)、10月に府中まで、延伸開業。新宿追分～府中が全通した。</p> <p>新宿追分～府中間、全線複線化。</p> <p>3月、京王の関連会社玉南(ぎょくなん)電気鉄道(株)府中～東八王子(現京王八王子)を開業。</p> <p>12月1日京王電気軌道が玉南電気鉄道を併合。</p>
<p>昭和2年(1927)</p> <p>昭和3年(1928)</p> <p>昭和4年(1929)</p>	<p>7月、江ノ島電気鉄道が東京電灯江ノ島線を買収。</p>	<p>4月、一部単線で小田原線(新宿～小田原)を一挙に開通、10月全線複線となる。</p> <p>(江ノ島線)大野信号所～片瀬江ノ島間を全線複線で開通。現在は相模</p>	<p>6月玉南鉄道線(府中～東八王子)の軌間1067mmから、京王線に合わせ1372mmへ拡げる工事終了。</p> <p>新宿追分駅が明治通りから、新宿ビルディング1Fに引越した。</p> <p>5月新宿追分～東八王子が直通運転となる。</p>

昭和5年(1930)		大野～片瀬江ノ島。	3月、新宿追分が四谷新宿と駅名改称。
昭和6年(1931)			(御陵線)北野～御陵前開通。但し昭和20年(1945)休止。昭和39年(1964)廃止。
昭和8年(1933)		渋谷急行電鉄から改称した帝都電鉄が8月、渋谷～井の頭公園開通。	
昭和9年(1934)		8月井の頭公園～吉祥寺開通。 渋谷～吉祥寺全通。	

江ノ島電鉄・小田急電鉄・京王電鉄

2

	江ノ島電鉄	小田急電鉄	京王電鉄
昭和12年(1937)			四谷新宿が京王新宿と駅名改称。
昭和13年(1938)	10月、経営悪化で東京横浜電鉄(現東京急行電鉄)の傘下に入る。		6月、御陵線のライバル路線である武蔵中央電気鉄道を買収、八王子線(横山車庫前～高尾橋)、後に高尾線となる。
昭和14年(1939)			高尾線は6月に休止、12月廃止となる。
昭和15年(1940)		小田原急行電鉄が上記帝都電鉄を合併。(渋谷～吉祥寺)は小田急帝都線になる。	
昭和16年(1941)		3月親会社の鬼怒川水力電気(株)への合併に伴い、小田原急行鉄道は解散。鬼怒川水力電気(株)は小田急電鉄(株)と改称して新発足。	
		9月、五島慶太氏取締役社長に就任。	
昭和17年(1942)		6月1日、陸上交通事業調整法に則り、京浜電気鉄道と共に東京横浜電気鉄道に吸収合併され、東京急行電鉄となる。(大東急時代)小田急電鉄は解散。	
昭和19年(1944)			5月31日、陸上交通事業調整法により、東京急行電鉄に統合され、いわゆる大東急の一員となる。
昭和20年(1945)			7月24日、始発駅が新宿駅西口の 小田急の隣となる。
戦 後	江ノ島電鉄	小田急電鉄	京王電鉄

昭和22年(1947)	3月、東急が持ち株の大部分を放出し東急グループから脱退。	東京急行電鉄社長、五島慶太氏公職追放。同社の12月の株主総会で、戦前統合した京浜急行電鉄(株)、京王電気軌道(株)、小田急電鉄(株)を分離することが決定される。	
昭和23年(1948)		6月1日、大東急から分離独立し、小田急電鉄(株)として再出発。その祭帝都線区間は京王帝都電鉄に所属。その代償として箱根登山鉄道と神奈川中央交通を系列化。	6月1日、大東急から分離独立、社名も「京王帝都電鉄」として再出発。その際(渋谷～吉祥寺)間が同社に移管して、京王井の頭線となる。
昭和24年(1949)	3月、鎌倉駅を若宮通りから国鉄鎌倉駅構内に移す(現在の場所)。8月商号を江ノ島鎌倉観光会社(株)に変更。	特急列車の毎日運航を開始。	
昭和25年(1950)		8月、箱根登山鉄道の箱根湯本駅に乗り入れ開始、	
昭和28年(1953)	小田急電鉄の関連会社になる。	江ノ島鎌倉観光会社(株)(現江ノ島電鉄)を関連会社に加える。	

江ノ島電鉄・小田急電鉄・京王電鉄

	江ノ島電鉄	小田急電鉄	京王電鉄
昭和30年(1955)		10月、松田～新松田間連絡線開通により、国鉄御殿場線に直通準急「銀嶺」「芙蓉」の運行開始。	4月、東府中～府中競馬場正門前間開業(競馬場線)。
昭和38年(1963)			12月、八王子駅を新宿よりに120m移転し、京王八王子駅と改称。
昭和39年(1964)			4月、多摩動物公園線(現動物園線)高幡不動～多摩動物公園間開通。
昭和42年(1967)			10月、高尾線、北野～高尾山口間開通。
昭和44年(1969)		後に相互直通運転する地下鉄千代田線の北千住～大手町間が12月に開業。以後順次部分開通を続ける。	
昭和46年(1971)		千代田線は北千住～綾瀬間開通。国鉄我孫子駅と相互直通運転開始。	4月、相模原線の調布～京王よみうりランド間開通。
昭和49年(1974)		6月、多摩線、新百合ヶ丘～小田急永山間開業。	10月、相模原線の京王よみうりランド～京王多摩センター間開業。

昭和50年(1975)		4月、多摩線が小田急多摩センターまで延伸。	
昭和53年(1978)		3月31日、千代田線、綾瀬～代々木上原間全通。小田急本厚木まで相互直通運転開始。	10月、京王新線、笹塚～新線新宿間開通。従来の京王線とは別の線路で複々線化。初台、幡ヶ谷は新線のみ停車。 12月、都営地下鉄新宿線、岩本町～東大島間開業。
昭和55年(1980)			3月、都営新宿線、新宿～岩本町間開業。京王帝都電鉄(現京王電鉄)と京王新線経由で相互直通運転開始。京王の車両は岩本町止まり。
昭和57年(1982)		千代田線が常磐線への乗入れ区間を取手まで延長。本厚木～取手間相互直通運転。	
昭和62年(1987)			都営新宿線への乗入れ区間が岩本町から大島まで延伸。
昭和63年(1988)			3月、本社を京王三丁目から聖跡桜ヶ丘駅前に移転。 5月相模原線、京王多摩センター～南大沢間開通。
平成2年(1990)	1989年度の決算で1975年以来の累積赤字を解消。	3月、多摩線が唐木田まで延伸、多摩線全通(新百合ヶ丘～唐木田)。	3月相模原線の南大沢～橋本間開通。相模原線全通(調布～橋本)。

江ノ島電鉄・小田急電鉄・京王電鉄

	江ノ島電鉄	小田急電鉄	京王電鉄
平成3年(1991)		3月、小田急とJR東海が特急「朝霧」で相互直通運転を開始(新宿～沼津)。	9月、都営新宿線、本八幡駅仮設駅から本駅として開業。新宿～本八幡間全通。同時に京王車両の乗入れ区間が本八幡まで延長。
平成9年(1997)			10月、都営新宿線が高尾山口まで平日朝1本のみ直通運転開始。
平成10年(1998)			7月、京王帝都電鉄(株)から、京王電鉄(株)に社名変更。
平成12年(2000)		12月、千代田線との相互直通運転で多摩線唐木田から綾瀬への急行	

<p>平成13年(2001)</p> <p>平成14年(2002)</p> <p>平成15年(2003)</p> <p>平成16年(2004)</p> <p>平成20年(2008)</p>		<p>新設、当初1本のみ。</p> <p>3月、千代田線との相互乗り入れ列車の大半を、相模大野発着の準急から、多摩線唐木田発着の多摩急行に変更。</p> <p>8月、箱根登山鉄道を完全子会社化。</p> <p>4月1日、営団の民営化で営団千代田線が東京メトロ千代田線となる。</p> <p>5月、全線指定特急の運転開始。</p> <p>3月17日、JR 東海と新宿～沼津間で運転されていた区間が新宿～御殿場間に短縮した特急「あさぎり」が就任。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>3月、都営新宿線から笹塚以西への普通列車を昼間は急行に変更。同時に土曜、休日にも拡大。</p> <p>* 現在、都営地下鉄新宿線との相互直通運転は主に笹塚～本八幡及び橋本～本八幡間で行なっている。</p>